

平成 30 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書
(抜粋)

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 計 画 書 -----	1
・ 収 支 予 算 書 -----	10

事業計画書

平成30年度事業計画

平成30年度は、財団設立40周年の節目の年を迎え、新たにいわき市勿来関文学歴史館の指定管理受託が始まります。一方、7施設の指定管理期間が最終年度となることから、次期を見据えた管理と運営が求められる年でもあり、健全経営に向けて、役職員一丸となった取り組みを進めます。

文化財部門は、市内における東日本大震災後の復興関連事業の収束に伴い、発掘調査関連事業は激減します。矢祭町から発掘調査や報告書作成を、双葉郡内から整理作業や報告書作成など市外の自治体の事業を受託し、業務量の確保を図ります。引き続き市と緊密に連携しながら、今後の業務量の正確な把握と確保に努めます。

施設部門は、これまで最多となる9施設の指定管理者となります。しかし、いわき市アンテナセンター、いわき市考古資料館、いわき市立草野心平記念文学館、いわき市草野心平生家、いわき市暮らしの伝承郷、福島県いわき海浜自然の家、いわき市勿来勤労青少年ホームの7施設が指定管理期間の最終年度にあたります。今後の市・県の動向を注視しながら、次期指定を目指します。

このほか、啓発事業として財団設立40周年記念の『石城国建国千三百年祭』を、いわき市考古資料館と事務局調査係の連携により開催します。さらに、出前講座の要請などに積極的に対応することで、財団の専門性を市民の方々にアピールしていきます。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

(1) 基本方針

市内での試掘・確認調査では開発行為に伴う調査のほかに、史跡指定のための範囲確認調査1件、復興関連事業1件、発掘調査では泉第三土地区画整理事業、公園整備事業、矢祭町基幹農道整備事業の3件、また、発掘調査終了後に行われる整理作業、報告書作成・刊行作業は、双葉郡内の檜葉町・大熊町・広野町及び矢祭町の6件を含む9件を予定しています。

これらの事業実施に当たっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故防止、事業の円滑化に努めるとともに、遺跡や資料の公開活用を図ります。

(2) 事業計画

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査	いわき市 (文化振興課)	市内一円	試掘・確認調査、整理、報告書作成
2	市内遺跡発掘調査 (範囲確認調査)	いわき市 (文化振興課)	梅ノ作瓦窯跡	確認調査
3	市内遺跡試掘調査 (復興交付金事業)	いわき市 (文化振興課)	専称寺境域	確認調査

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
4	泉第三土地区画整理事業	いわき市 (小名浜区画整理 事務所)	泉町A遺跡	発掘調査
5	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	割目遺跡	発掘調査
6	中心市街地活性化広場 公園整備事業	いわき市 (公園緑地課)	平城跡 旧城跡遺跡	発掘調査
7	埋蔵文化財発掘出土品等 整理事業	いわき市 (文化振興課)	山下谷遺跡 西ノ作遺跡	整理
8	餓鬼堂地区埋蔵文化財 発掘調査事業	いわき市 (市林務課)	餓鬼堂横穴群	報告書刊行
9	泉第三土地区画整理事業	いわき市 (小名浜区画整理 事務所)	泉町A遺跡 御前田A遺跡 御前田B遺跡	整理 報告書作成
10	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	我満平遺跡	報告書作成 ・刊行
11	基幹農道整備事業	矢祭町 (矢祭町教育委員会)	割目遺跡	整理
12	竜田駅東側開発事業用地 本発掘調査業務(その1)	檜葉町 (檜葉町建設課)	高橋遺跡	報告書作成 ・刊行
13	竜田駅東側開発事業用地 本発掘調査業務(その2)	檜葉町 (檜葉町建設課)	高橋遺跡	報告書刊行
14	平成29年度町内遺跡試掘 調査整理作業業務	大熊町 (大熊町教育委員会)	町内一円	整理
15	広野町駅東側開発整備 事業	広野町 (広野町教育委員会)	柳町II遺跡 桜田IV遺跡	整理 報告書作成 ・刊行

2 施設部門(公2 教育文化施設の管理運営事業)

(1) 基本方針

新たに受託するいわき市勿来関文学歴史館を含め、教育文化施設6、社会教育施設3の9施設の指定管理者として、自らの責任と判断によって、施設の設置目的や機能に基づいた適正な管理運営を行い、さらには公共施設の持つ意義を考え、利用者への公平かつ平等なサービスの提供に努めます。また、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することによって、市民へのサービス向上に努めるとともに、施設の利用促進を図ります。

利用者の安全確保については、常に細心の注意を払って施設設備の維持管理に当たることを最優先とし、快適で便利な施設環境を確保するため、市・県と連携しながら

施設設備の効果的な補修整備に当たります。

指定管理期間の最終年度に当たる7施設については、市・県の動向を見極めながら、これまでの実績に対する評価・検証を行い、市民ニーズを踏まえた新たな事業計画案を策定して、次期指定を目指します。

(2) 事業計画

ア いわき市アンモナイトセンター

当施設の基幹事業である体験発掘事業については、個人や家族を対象とした一般体験発掘として毎週土・日曜日に実施するほか、8月のお盆休み期間においても特別実施日として開催します。また、学校等の団体を対象とした特別体験発掘は、原則として一般体験発掘非実施の開館日において実施します。なお、4月～6月は集中的な露頭整備に伴い体験発掘事業は一時休止します。

企画展事業は、小・中学校の夏休み期間における「フタバスズキリュウから半世紀～日本古生物学の新時代を切り開く発見」、及び冬休み期間における「絶滅生物の行動を読み解く展示会～生痕化石がもつ力」を開催し、当館周辺より産出する化石の魅力を発信する展示を実施します。特に夏休み企画展はフタバスズキリュウ発見50周年を記念し、首長竜の新規発見標本に係るプレスリリース・展示を視野に入れ、例年より力を入れて実施する予定です。

親子自然探訪教室事業は、祝日を中心に年6回を実施します。親子を対象とし、自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。

公開シンポジウム（化石講演会）は、例年同様久之浜中学校を会場に9月に実施します。既述のフタバスズキリュウ発見50周年と連動したテーマに関する専門講師を招聘し、いわき地域の化石（特に恐竜やフタバスズキリュウ）についてのご講演をいただくことで地域の小・中学生や一般市民に故郷の魅力を伝えます。

以上に加え、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供する出前講座を実施します。また、地域の活動・イベントや他館との連携、収蔵標本の登録・研究についても積極的に推進します。

イ いわき市考古資料館

企画展は、4月～6月に近世いわきの藩展Ⅴ「幕領小名浜、笠間藩・多古藩・棚倉藩分領」、7月～8月に「平成29年度発掘速報展」、1月～3月に道具の歴史Ⅴ「遺跡から出土した骨や貝製の道具」のほか、1月にミニ企画展「干支ーいのししー」を開催します。さらに、財団設立40周年記念事業の一環として、調査係との共催で9月から1月にかけて特別展「石城国建国千三百年展ーいわきの始まりー」を開催します。あわせて、それぞれの展示会の理解を深めていただくために、展示解説会、遺跡報告会、講演会、探訪会等を開催します。

講座は、成人を対象に石城国建国1300年をテーマとした「いわきの考古学講座」を全6回、夏休みの親子を対象とした「自由研究に挑戦しよう!!」、質の高いボランティアを養成する「ボランティア養成講座」を開催します。

体験学習会は、「ゴールデンウィーク体験学習会」・「夏休み体験学習会」・「古代

まつり」・「いわきキッズミュージアム」のほか、ゴールデンウィークや夏・冬休みの土・日曜日に実施する「勾玉づくり体験会」など合わせて25回開催します。

また、歴史に関する問合せや資料の貸出及び団体への解説や体験指導、出前講座等、利用者の様々な要望に積極的に応え、市民の満足度を高めます。

ウ いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、開館20周年と詩人・草野心平（1903～1988）の没後30年を迎え、記念となる春、夏、秋、冬の計4回の企画展を開催します。

春の企画展「草野心平の校歌」では、心平が作詞し、現在も全国100校以上で歌われている校歌をとりあげ、自筆原稿をはじめ、日記や書簡等の関連資料もあわせて展覧するほか、校歌を聞くことができるコーナーを展示室内に設け、その地域性に富んだ内容、旋律もあわせて紹介します。

夏の企画展「宮沢賢治展 一賢治の宇宙 心平の天一」では、詩人・童話作家として知られている宮沢賢治（1896～1933）と心平の交友を軸に、東日本大震災後、あらためて注目されている賢治の「雨ニモマケズ」という無力の自覚にたち、思いやりに満ちた賢治の詩の魅力を紹介します。

秋の企画展「生誕120年記念 猪狩満直展」では、心平とも交友が深かったいわき出身の農民詩人、猪狩満直（1898～1938）の創作活動を紹介し、人間性にあふれた作品の魅力に光をあてるとともに、吉野せいをはじめとしたいわきゆかりの作家、詩人との交友も紹介します。

冬の企画展「草野心平の居酒屋『火の車』 もゆる夢の炎」では、心平が経験した様々な職業の中でも象徴的な仕事であり、創作の場でもあった「火の車」をとりあげ、当時の逸話なども紹介します。

生家では、「心平誕生月の記念朗読会」、没後31回忌「心平忌」・第25回「心平を語る会」、「草野天平の集い」などを開催します。

エ いわき市暮らしの伝承郷

企画展は、8月～10月に明治・大正・昭和初期頃の衣類を中心とした「伝承郷収蔵品展」、12月～1月に磐城民俗研究会会員だった岩崎敏夫氏と内藤丈夫氏が撮影した「昭和10年代のいわきの年中行事写真展」、2月～3月に津軽地方の伝統的な刺し子作品を紹介する「青森こぎん刺し一塩谷美江作品展Ⅱ」の3回、特別展は、4月～6月に「古民家模型展パートⅣ」を開催します。

講座は、市民のニーズに応え、暮らしの中の伝承と知恵をテーマに開催します。

体験事業は、様々な行事の伝承や昔遊び、竹・藁細工など伝統の技に親しみ習うための体験学習や演奏会を、季節に因んだ年中行事の要素なども取り込み開催します。また、年中行事では、近年見られなくなった「盆棚飾り」「餅花飾り」のほか、「端午の節句飾り」「蚊帳吊り」などを実施し、季節毎の暮らしの知恵や祈りについで伝承を行います。

主要展示である園内展示については、引き続き古民家を中心とした景観や昔の暮らしを復元・展示することにより、生活文化の保存・伝承を行います。干し柿など保存食作りの経過を展示するとともに、昔ながらの花木・野菜を育成し、来園者が

親しみを持つことのできる空間の提供を図り、市民の憩いの場となるよう努めます。これまでの利用者層を維持するとともに、ホームページの随時更新、催事案内にQRコードを採用するなど、新たな利用者層の開拓に努めます。

オ いわき市生涯学習プラザ

指定管理受託期間5か年の4年目に当たります。引き続き生涯学習の拠点施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めます。

プラザが企画・運営する26の主催講座に加えて、サークルやITリーダーが自主的に企画・運営する「サークル企画講座」、ITボランティアや子育て支援ボランティアが運営する「ボランティア活用事業」は、参加者・利用者から高い評価を得ており、継続して実施します。市民ニーズが高く応募者が多い「パソコン実用講座」は、内容の充実を図ります。また、全世代にわたる利用の促進を図るため、親子で参加できる講座の充実を図ります。

他団体との共催事業としては、(一社)茶道裏千家淡交会いわき支部との「お茶会」、いわき市華道連合会との「生け花展」などを開催します。

いわき市生涯学習プラザ開館15周年記念事業として昨年実施した、特別展「写真に見るいわきの映画館」が非常に好評であったことから、関連分野の事業の実施や情報提供を行います。

さらには、生涯学習支援ボランティアの会と連携した効率的な市民大学運営を実施します。

カ 福島県いわき海浜自然の家

利用者の安全確保を最優先と捉え、一層の安全対策の徹底や施設の快適性の向上に努めます。日頃から細心の注意を払って施設整備の維持管理に当たるとともに、快適で便利な施設環境を確保するため、施設設備の効果的な補修整備を推進します。

また、幼児から高齢者までの幅広い年齢層が楽しめるような魅力あるプログラムづくりに取り組みます。主催事業として、施設を一般開放する春と秋の「オープンデー」のほか、「初夏海」・「オータムキャンプ」・「冬を楽しもう」など、四季に合わせた様々な自然体験活動を通して自然の家の魅力を紹介します。3年目となる「未来キッズ生き活き事業」では、いわき・相双地区の親子を対象に、子ども達の体力回復と健康意識の啓発に取り組みます。

さらに、利用者アンケートの実施等により、ニーズや満足度を随時把握し、様々な要望に対応するためのプログラムの充実を図るとともに、各種団体（小・中学校等）への積極的な利用提案により新たな利用者の掘り起こしを強化します。学校教育団体の利用希望の多い繁忙期に限定した休所日の臨時開所は、引き続き実施します。

今後は、県内5か所の自然の家との連携を今まで以上に密にするとともに、民間指導者の協力や高校生・大学生等の若手ボランティアの養成を強化し、活動のさらなる充実を目指します。

キ いわき市勿来勤労青少年ホーム

指定管理受託期間は今年度の1年間のみですが、これまで以上に、市民が平等に安心して利用できるよう公平な運営を推進します。また、施設の維持管理、設備の保全等に努め、円滑な管理運営のために地域との協調・連携を図ります。

教養講座は、年間講座として14講座を実施します。さらに、短期講座として、利用者のニーズを把握し、勤労青少年の意向を反映した新たな講座を計画するなど、事業の充実・強化を図ります。また、定期的にホームページへ情報発信するなど、利用者の増加に努めます。

生活、職業等に関する相談及び指導のほか、各種レクリエーション活動については、県内5施設が中心となって運営する福島県勤労青少年ホーム連絡協議会と連携し、情報共有を図りながら交流の輪を拡大するなど、勤労青少年の健全育成に努めます。

ク いわき市勿来関文学歴史館

昭和63年7月に開館し、平成12年のリニューアル工事を経て、現在で31年目の施設です。今後5年間の指定管理者として、4月1日から新たに施設の管理運営に当たります。施設の設置目的や事業目的に沿って、いわき市南部の文学・歴史関係の施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めます。あわせて、隣接する吹風殿の開閉業務を実施します。

企画展は、4月～7月にいわき市南部を代表する松山寺に伝わる法華経等の展示と松山寺を中心とした勿来の歴史を紹介する「関松山松山寺の宝物と勿来の歴史」、7月～10月に江戸時代前期の俳諧師西山宗因の著書『奥州紀行』をもとに、宗因のいわきにおける足跡をたどる「西山宗因といわき」、12月～3月に平の商家に伝わる明治時代から大正時代の吊し雛などを紹介し、歴史的文化的意味を探る「いわきの雛の吊し飾り」の3回開催します。企画展の会期中には、講演会や展示解説のほか、関連するワークショップも開催します。

また、地域の人物を紹介するスポット展示として、10月～11月に「星一」展、3月～4月に「諸根樟一と諸根慶子」展を開催します。

3 管理部門(法人会計)

(1) 基本方針

平成26年4月に公益財団法人へ移行してから5年目を迎えます。財団が担う使命を職員一体となって遂行していけるよう、全体の連絡や調整を図りながら事業を推進します。

また、指定管理期間が最終年度にあたる7施設については、市・県の動向を見極め、各施設と連携を図りながら、指定管理者申請の事務を進め、次期指定を目指します。

また、公益法人の財務会計については、収支相償に留意しながら適切に処理します。

さらに、財団運営を支える人材育成を着実に進められるよう、効果的な研修を実施していきます。

(2) 業務執行体制等

退職者補充および新規指定管理施設の受託に合わせて、4月1日付で2名の新規職員を採用しました。今後も、各施設等の適正人員を把握し、事業運営に見合った組織づくりに努めます。

(3) アクションプラン(行動計画)の作成

事務局及び全施設において作成し、目標達成に向けて具体的に行動します。引き続き、適宜に評価・点検を行い、改善を図りながら、安全で安心な事業を実現します。
(別冊「平成30年度アクションプラン」参照)

(4) 情報開示

財団の事業計画や事業報告、財務諸表の公開はもとより、管理運営を行う施設の事業の内容等についても、ホームページを通じて迅速な情報提供・発信に努めます。また、財団の事業内容の周知を図るため、平成29年度版『年報』を刊行します。

(5) 職員研修

人材育成を着実に進める効果的な研修を実施するために、研修体系を整備します。新規採用職員研修や新任係長研修等の基本研修については、平成30年度から公益財団法人ふくしま自治研修センターの研修に参加して実施します。

また、職員のスキルアップのための研修実施、関係資格取得のための講習・研修への参加推進、自主研修制度(図書購入補助を含む)の活用促進を図るなど、職員の資質向上に努めます。

さらに、業務や個人での研究成果については、「研究紀要」を刊行することで、発表の場を設け、市民の方々にも還元していきます。

(6) 啓発・広報等

公民館や学校、地域の要請による出前講座等については、好評であることから、引き続き積極的に実施していきます。

また、文化財・施設両部門ともに、多くの情報を市民の皆様と共有していきます。文化財部門では、発掘調査の現地説明会や考古資料館と連携した「速報展」の開催、施設部門では、収蔵資料の公開を目的とした展示会などの開催を行います。さらに、「たからものずかん」シリーズの刊行も継続して行います。

財団設立40周年記念事業については、『石城国建国千三百年祭』と銘打って考古資料館を中心に開催します。特別展「石城国建国千三百年展－いわきの始まり－」の開催をはじめ、シンポジウムや関連講座、史跡探訪会を実施します。

4 職員に関する事項

(平成30年度体制)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	—	2	—	1	4
調査係	—	1	—	3	1	—	11	16
計	1	4	0	3	3	0	12	23

(2) 施設

区分	館長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
アンモナイト センター	—	—	—	—	1	2	1	4
考古資料館	1	(1)	—	—	(2)	—	2	3 (3)
文学館	2	1	1	1	—	—	3	8
伝承郷	1	—	1	—	2	—	3	7
生涯学習 プラザ	2	1	—	1	1	—	6	11
いわき海浜 自然の家	1	1	2	1	2	3	9	19
勿来勤労 青少年ホーム	1	—	—	—	—	—	2	3
勿来関 文学歴史館	2	—	—	—	1	—	2	5
計	10	3 (1)	4	3	7 (2)	5	28	60 (3)

合計	11	7 (1)	4	6	10 (2)	5	40	83 (3)
----	----	----------	---	---	-----------	---	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	1	1	0	
基本財産受取利息	1	1	0	
事業収益 (B)	576,027	560,480	15,547	
文化財調査受託料	142,424	163,646	△21,222	事業受託15件
施設指定管理料	420,550	384,021	36,529	施設9件
いわき市アンモナイトセンター	17,211	17,073	138	
いわき市考古資料館	13,459	13,264	195	
いわき市立草野心平記念文学館	68,670	68,483	187	
いわき市草野心平生家	3,151	3,151	0	
いわき市暮らしの伝承郷	40,842	40,842	0	
いわき市生涯学習プラザ	86,213	86,027	186	
福島県いわき海浜自然の家	145,100	142,258	2,842	
いわき市勿来勤労青少年ホーム	12,995	12,923	72	
いわき市勿来関文学歴史館	32,909	0	32,909	
施設事業受託料	7,685	7,444	241	事業受託3件
いわきヒューマンカレッジ	3,793	3,633	160	
未来キッズ生き生き事業	3,611	3,811	△200	
吹風殿開閉業務	281	0	281	
施設利用料	5,124	5,089	35	施設1件
出版物頒布料	244	280	△36	
受取負担金 (C)	0	0	0	
講師派遣料	0	0	0	
受取寄附金 (D)	0	0	0	
寄附金	0	0	0	
雑収益 (E)	373	1,743	△1,370	
受取利息	5	12	△7	
雑収益	368	1,731	△1,363	
経常収益計 (F)	576,401	562,224	14,177	(A～E)
(2) 経常費用				
事業費 (G)	560,249	563,183	△2,934	
給料手当	115,919	128,119	△12,200	
賞与引当金繰入額	11,368	12,374	△1,006	
賃金	128,172	132,475	△4,303	
共済費	43,706	40,408	3,298	
報償費	7,709	7,300	409	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
旅費	6,813	7,216	△403	
消耗品費	9,905	11,660	△1,755	
被服費	530	428	102	
燃料費	8,576	9,321	△745	
食糧費	406	413	△7	
印刷製本費	22,991	12,670	10,321	
光熱水費	34,366	30,635	3,731	
修繕費	7,620	8,553	△933	
医薬材料費	86	134	△48	
通信運搬費	7,362	6,825	537	
広告料	562	308	254	
手数料	1,579	1,436	143	
保険料	1,591	1,520	71	
委託料	79,447	80,327	△880	
使用料及び賃借料	27,276	42,881	△15,605	
工事請負費	2,106	1,618	488	
原材料費	306	485	△179	
負担金	431	369	62	
公租公課	24,525	24,410	115	
消耗什器備品費	872	1,222	△350	
減価償却費	15,156	76	15,080	
支払利息	869	0	869	
管理費	31,871	34,964	△3,093	
報酬	399	399	0	
給料手当	11,495	14,151	△2,656	
賞与引当金繰入額	1,455	1,135	320	
賃金	4,316	4,329	△13	
共済費	4,090	4,294	△204	
報償費	258	258	0	
旅費	622	682	△60	
交際費	80	80	0	
消耗品費	686	746	△60	
被服費	30	30	0	
燃料費	72	72	0	
食糧費	107	107	0	
印刷製本費	2,052	2,130	△78	
光熱水費	150	150	0	
修繕費	100	200	△100	
通信運搬費	346	336	10	
広告料	50	50	0	
手数料	518	496	22	
保険料	74	57	17	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
委託料	385	458	△73	
使用料及び賃借料	2,051	2,122	△71	
負担金	577	622	△45	
補償費	38	38	0	
公租公課	1,344	1,446	△102	
消耗什器備品費	500	500	0	
減価償却費	76	76	0	
経常費用計 (I)	592,120	598,147	△6,027	(G+H)
当期経常増減額 (J)	△15,719	△35,923	20,204	(F-I)
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計 (K)	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計 (L)	0	0	0	
当期経常外増減額 (M)	0	0	0	(K-L)
当期一般正味財産増減額 (N)	△15,719	△35,923	20,204	(J+M)
一般正味財産期首残高 (O)	94,447	130,370	△35,923	
一般正味財産期末残高 (P)	78,728	94,447	△15,719	(N+O)
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額 (Q)	0	0	0	
指定正味財産期首残高 (R)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高 (S)	10,000	10,000	0	(Q+R)
III 正味財産期末残高	88,728	104,447	△15,719	(P+S)

資金調達及び設備投資の見込について

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額		資金調達方法 又は取得資金の用途	